

<白金標準、高値から 37 営業日の日柄を費やし、基調転換の期待・・・>



(出所：オアシス)

8 月 24 日に高値 9653 円を付けた後は、欧州通貨であるユーロドルが 1 ユーロ : 1.1678 ドルで推移していたが、様々な要因を受けユーロドルは 9 月 13 日には 1.1176 ドルまでユーロ安で低下している。そのため白金標準先物は、ユーロ安に連動し先週に 7893 円まで下値を模索している。特に 7 月 1 日に 7714 円まで下値を模索し、37 営業日を費やしながらか 9653 円まで高値を試し、ユーロ安の動きも同様に 37 営業日を費やし 7893 円まで下値を模索している。特にユーロ安の要因である米国債の金利高は、コアウィーブなど AI 関連のハイテク株が再び売られた事から逃避の米国債買いへ移行し、金利の上昇が抑えられている。また米国債買いで金利は低下し、ドル買い要因が消えた事からユーロ安の動きも抑制され、白金価格を押し下げていた要因が後退している。また今月は納会、新保発会の月でもあり、6 月限、8 月限に続き 10 月限は安値発会となる可能性もあるだけに、新保発会以降は高値に対する戻り基調が強まる可能性も秘めている。そのため 8000 円以下は、売られ過ぎの域に入る可能性は高いと思え、ロングポジションのエントリーを考えて対応するのが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下げ渋り、**シグナル** は下げている。RCI では**短期**が切り上げだし、**長期**は維持している。また指数平滑移動平均線のレンジに日足が移行しており、下げ止まる値動きに思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,495,000 円(2026 年 10 月 19 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 89,980 円(2026 年 10 月 19 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>